

2Qa-12 階層化意思決定法による街着の購入店舗の選定

鳴門教育大 ○藤原康晴 鳴門教育大学院 井上友紀 梅花短大 川端澄子

目的 街着の購入に際して、多くの者はあらかじめいくつかの評価基準を設け、その基準の重要度を考慮して購入店舗を選定している。本研究では、街着の評価基準として、有名メーカ・ブランド品、サイズの豊富さ、割安品、定員のアドバイス、デザインの豊富さ、交通などの利便性を取りあげ、これらの基準に対する重視の程度を測定するとともに百貨店、量販店、専門店がこれらの基準をどの程度満たしていると判定されているかを測定し、Saatyによって提案されたAHP（階層分析法）を用いて分析した。

方法 上記の6評価基準の重視度を、また、各基準に対する百貨店、量販店、専門店の充足度を一対比較法によって測定した。前報では、対象者全員（女子短大生123名）の判定結果を用いて分析したが、本報では、整合性のある判定を行った対象者のみのデータを用いて分析した。

結果 街着を評価する6基準の一対比較の判定において、整合度のよい者は73名（59%）であった。この73名の判定結果を用いて6基準の重視度を算出した結果、そのウェイトは、有名メーカ・ブランド品（0.13）、サイズの豊富さ（0.16）、割安品（0.16）、定員のアドバイス（0.05）、デザインの豊富さ（0.40）、交通などの利便性（0.09）となった。さらに、これらの評価基準を百貨店、量販店、専門店目がどの程度充足しているかのウェイトを求め、評価基準のウェイトに各評価基準に対する各店舗のウェイトを乗じて求めた各店舗の総合ウェイトはそれぞれ 0.41, 0.23, 0.36 となった。女子短大生の街着の購入店舗は百貨店、専門店、量販店の順であることがわかった。